

「キリストと共に葬られ」井上隆晶牧師
ローマ6章3～10節、マタイ3章13～17節

①【ヨハネの大洗礼運動】

荒野に現れたヨハネは「悔い改めの洗礼」を行いました。洗礼は外国人が主なる神を信じる時に受けるもので、生まれながらのユダヤ人は洗礼を受けませんでした。それをヨハネは「外国人であろうとユダヤ人であろうと皆、同じであり、本当に悔い改めにふさわしい実を結ばなければ滅びる」と語って、全員に洗礼を施したのです。人々は彼こそメシアではないかと思い、荒野にいるヨハネの所に全国から人々が集まり、罪を告白し、彼から洗礼を受けました。このような大洗礼運動は今までなかったことなので、彼のことを「洗礼者ヨハネ」と呼びます。その群衆に向かってヨハネは言います。「私は悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、私の後から来られる方は、私よりも優れている。私はその履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」（マタイ3：11）

②【イエスを知ることの天と地の隔たりがある】

その大群衆の中にまぎれて、ナザレの田舎から出て来たイエス様がおられました。ヨハネは自分の前に現れたイエス様を見て驚き、洗礼を授けるのを辞退しようとして言います。「私こそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、私のところへ来られたのですか」（マタイ3：14）。

●祈祷書はこのヨハネの驚きをこう書いています。「洗礼者ヨハネの手は、あなたのいと聖なる頭に触れたとき、震えました。…汚れなき主よ、どうして僕のところに来られたのですか。私は誰の名によってあなたに洗礼を授けましょう。父の名によってですか。父はあなたの中におられます。子の名によってですか。あなた御自身が人体を取られたお方です。聖霊の名によってですか。あなたは聖霊を口から信者にお与えになります。」

群衆は、自分たちの中にいるナザレの若い青年が誰であるのかに気づきません。しかしヨハネは「私はその履物をお脱がせする値打ちもない。」と言いました。「私は奴隸以下の者であって、イエス様の足に触れる値打ちもない。頭に手をのせるなんて何と畏れ多いことか」と言ったのです。群衆はやがて、この方の足に釘を打ち、頭に茨の冠を被せ、顔に唾を吐きかけることになります。この方を知ることにおいて群衆とヨハネには天と地の隔たりがあります。あなたはこの方を本当に知っていますか、どう扱っていますか。それが来世ではっきりするでしょう。

③【洗礼のさまざまな意味とその恵み】

イエス様はヨハネに「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、

われわれにふさわしいことです。」（マタイ 3：15）と言われ、ヨハネの手から洗礼を受けられました。イエス様は罪のない神の子なのに洗礼を受けたのは、ご自分の為ではなく私たちの救いの為でした。

（1）《神に従う本当の人の姿を再現している》

パウロは「私たちの先祖は皆、雲の下におり、皆、海を通り抜け、…モーセに属するものとなる洗礼を授けられました。」（Iコリント 10：1～4）と言って、紅海を渡ることが洗礼のひな型であると言っています。しかしイスラエルの民はこの後、神から離れ堕落しました。そこでイエス様は従順に洗礼を受けることで、古いイスラエルの不従順を癒されるのです。イエス様が洗礼を受けた時、天が開け、聖霊が鳩のように降り、父なる神様の声「これは私の愛する子、私の心に適う者」（3：17）がありました。イエス様こそ新しいイスラエル、本当に神に従う人なのです。

（2）《死と再生を与える新しい洗礼を立てられた》

聖書では水は裁きの道具として用いられました。ノアの洪水では悪人を滅ぼし、紅海ではエジプト軍を滅ぼしました。ヨハネは自分の「水の洗礼」とは違う、新しい「聖霊と火の洗礼」がメシアによって始まると言いました。イエス様はあえて水による洗礼を受けることによって、ご自身の中で水の洗礼と、聖霊を降す洗礼を一つにされたのです。水によって古い人を葬り去り、同時に聖霊によって新しい人を創造するのです。

●エルサレムのキュリロスは348年に聖墳墓教会で、洗礼志願者にこう説教しました。「三回水に浸かり、また水から上がりましたが、それでキリストの三日間の埋葬を暗に象徴していたのです。…あの救いの水はあなたがたにとって墓であり母の胎でもあったのです。…何と奇妙で不思議なことがあります。私たちは本当に死んだのでもなく、本当に墓に入ったのでもなく、本当に十字架に架けられて復活したのでもありません。しかし模倣がかかるほどにすぎないとしても、救いは真実なのです。」

だからいつも言っているように、あなたは既にこの世に死んだのです。

（3）《キリストと一体になる儀式である》

衣服の汚れは水と触れ合うことによって、水の中に転嫁します。同じように、神の子キリストと私たちが一体になることによって、私の罪は彼に転嫁されるのです。だから彼は私たち人間と共に洗礼を受ける必要があったのです。だから洗礼式と言うのはキリストと一体となる式であり結婚式といつてもいいでしょう。パウロは「私たちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。…私たちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。」（ローマ 6：4～5）と書いています。

主イエスは「われわれ」という言葉をもって、罪ある人間の仲間になって下さったのです。神は人間とすべてを分かち合い、徹底的に人間と連帶されたのです。神は人となって人間性を分かち合つただけでなく、人間特有の罪や病や死をも分かち合います。良いものだったら誰でも分かち合いをします。しかし嫌なものを誰が分かち合ってくれるというのでしょうか。罪を負いたい者が誰かいるでしょうか。恥や汚れや嘲笑と一緒に受けてくれる者がどこにいるでしょうか。病気を引き受けてくれる者が一体どこにいるでしょうか。しかし神とはそういうお方なのです。それを愛といいます。共に苦しんでくれる、同じようになってくれるということは本当に有り難いことです。「あなたが、わたしのところへ来られたですか。」とヨハネはいいましたが、その通りなのです。人が自分の力では天国に昇れないでの、キリストがあなたの所まで降られたのです。

（4）《洗礼によってキリストを着る者となる》

預言者エリシャは天から落ちて来たエリヤの外套を取って、それでヨルダン川を打つと、川は二つに分かれ渡ることが出来ました。ヨルダン川は死を象徴しています。このエリヤの外套こそ、キリスト自身なのです。「**洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。**」（ガラテヤ 3：27）キリストを着ている者は死に飲み込まれず、神の国という命の世界に渡ることができます。

（5）《神の約束の業=サクラメント》

重い皮膚病だったシリアのナアマン将軍は、汚れたヨルダン川に七度身を沈め、子供のような肌になりました。これは聖礼典の意味をよく教えていました。洗礼によって罪が清くなるのは、その水が清いからではなく「**身を洗え、そうすれば清くなる**」という神の言葉（約束）だからです。私たちの罪が清くなるには「従順さ」が必要です。僕のようになって、神の言葉に従うことです。

●私が洗礼を受けたのは 1982 年 12 月 19 日のクリスマス、23 歳の時でした。妻と一緒に洗礼を受けました。信仰について難しいことは分かりませんでしたが、ただ単純に罪が赦され、清くなりたかったからだと思います。今年で受洗 43 年になります。洗礼を受けたからといって罪を犯さなくなった訳ではありませんし、立派な清い人間になった訳でもありません。ただ一つはっきりしているのは、洗礼によって主人が変わったということなのです。

以前、私たちは「律法」という主人のもとで生きていました。律法によれば、私たちは失格者であり、天国に入れません。でも私を支配される方が変わったのです。キリストに結ばれ、キリストの愛と赦しの支配下に私は置かれました。キリストが私の主人になったのです。だから法則が変わったのです。キリストの愛が新しい法なのです。パウロもそのことを「あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい」

(ローマ 6：11) といっています。だから古い自分を葬り去りなさい。自分の正しさを捨てなさい。キリストが何と命じられたかが、すべての基準となるのです。キリストなしに生きて行けるという思いを捨てなさい。キリストから離れたら、あなたはたちまち律法の支配下に置かれ、自分と周りの人を滅ぼすでしょう。自分が主人となっている人はそんな自分に死になさい。キリストを主人とし、彼に従順に従いなさい。人は共にいる者に似ます。キリストと一体なら、必ずあなたはキリストに似るでしょう。すばらしい恵みを感謝します。